

羅針盤 No.56

東港金属株式会社
 東京都大田区京浜島2-20-4
 電話 03-3790-1751
 URL <http://www.tokometal.co.jp>
 (見学受付)
 電話03-3790-1751 又は 各営業担当

時間の過ぎる速度は一定と思えますが、秋から冬にかけては日頃より速く感じるのなせだろうと考えてみました。日照時間のせい？ 木々の葉の色が次々と移ろうから？きつと、運動会、ハロウィン、七五三、忘年会、そしてクリスマスと行事が多く、あつという間に年末になってしまうでしょう。おせちの広告も街に溢れています。日が短く寒くなってきました。札幌や函館の初雪は平年より10日位早かったようですが、今年の冬の寒さは暖冬か、厳冬か越年の準備が気になるところです。ただ気候変動は確かに温暖化の方向に動いているようで、カナダの大学の研究発表でも過去約40年間に日本周辺を含む世界の主要漁場で、冷たい海を好む魚の漁獲が減り、温かい海の魚の漁獲が増えていると報告されています。海表面水温が上がり収穫時期がずれるだけなら良いですが、魚種変化が陸域に与える影響も心配で「例えばサケが川に上がり、それを熊などが持ち込んで森を作る。そのサケが来なくなれば、勿論自然に影響しますね」と懸念している研究者もおられます。温暖化を少しでも防ぐためにも廃棄物は出来る限りサイクルし、資源循環させましょう。



(さくら葉の紅葉)

東港金属株式会社は非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物の処理を“いつでも”お受けいたします。身近なリサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。

鉄・非鉄スクラップ・市況からの11月予測

営業部 Y の考察

☆羅針盤

- 鉄スクラップ** → 考察) 10月は指標になる東京製鉄宇都宮工場特級価格34,000円/トンで始まりましたが、最終的には、29,000円/トンまで下がりました。輸出価格・原料価格の下落が原因と思われる。11月に関しても上げの要素はないが、発生が少ないため横ばいが続くと思われる。
- 銅** → 考察) LME6,750ドル/トンでスタートし、最終的には6,800ドル/トン台。国内建値は780,000円/トンスタート。月末は770,000円/トン。11月は、LME自体上がっていませんが円安が進んでいるため、月初から上がるでしょうが、円安が止まれば、下げになる可能性大。
- アルミ** → 考察) LME2,000ドル/トンキープ。10月は特に上げ下げは無しでした。11月は、トラック部品生産が好調であることやLMEの価格も安定しているため多少上がると思われます。
- プラスチック** → 考察) 原油が下がっていますが、円安が進んでいるため、11月も動きは無いでしょう。

10月予測の自己評価

鉄スクラップ	×	アルミ	○
銅	×	プラスチック	○

☆羅針盤

災害廃棄物について(2/2)

前回に引き続き、災害廃棄物についてのご紹介となりますが、今回は環境省の「災害廃棄物処理情報サイト」を基に、東日本大震災に続き、災害廃棄物及び津波堆積物(以下「災害廃棄物等」と呼びます。)の発生量と処理の経過をご紹介します。

2011年3月に発生した東日本大震災では、東日本の太平洋沿岸部を中心に、13道県にわたり災害廃棄物約2千万トン、津波堆積物約1.1千万トンが発生しました。

◆災害廃棄物等の推計量

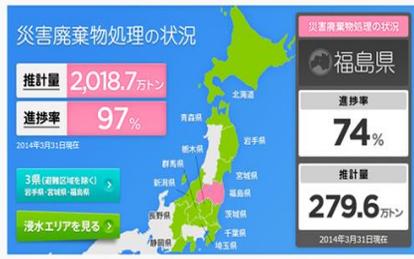
	北海道	青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	新潟県	静岡県	長野県	計
災害廃棄物推計量	8	124	4,288	11,710	2,796	843	224	4	7	127	35	1	22	20,189
津波堆積物推計量	0	55	1,609	7,585	1,754	2	0	0	0	11	0	0	0	11,016

(千トン)

災害廃棄物の93.1%、津波堆積物の99.4%を岩手、宮城、福島県の3県で占めており、この3県への影響の大きさを知ることができます。

◆災害廃棄物等の処理状況

目標期日(平成26年3月末)迄に、福島県を除き、岩手県・宮城県を含む12道県231市町村において、災害廃棄物等の処理が完了しました。福島県は原発事故の影響で処理が大幅に遅れ、一部地域において、継続して処理を実施しておりますが、当初の目標期日迄の達成が出来ない状況となっております。



福島県の災害廃棄物処理状況
http://kouikishori.env.go.jp/disaster_waste/progress/

◆災害廃棄物等の再生利用状況

災害廃棄物の8割強にあたる約1,606万トン、津波堆積物のほぼ全量にあたる約999万トンが再生利用されています。

	都道府県	市町村数	災害廃棄物等発生量	処理の内訳			計
				再生利用	焼却	埋立	
災害廃棄物	13	239	20,189	16,062	2,384	1,232	19,678
津波堆積物	6	36	11,016	9,990	-	114	10,104

(千トン)

◆災害廃棄物等は、時間の経過とともに関係者の努力で確実に処理されております。しかし、復興の完了までの道のりはまだまだ遠いように思えます。「花は 花は 花よ咲け！ 日本」



温泉旅館奮闘記

Scene 4 温泉旅館の偽装問題

近年、偽装表示問題が大手ホテル、大手ファーストフード等で問題になりました。

温泉旅館でも、お食事は地産地消で地の旬ものを各お部屋に提供する「部屋出し」が昔の主流でしたが、バブル時から食事会場でパイキング形式の提供がかなり増えています。

食べ放題の方がお得だよ！と思う方もいらっしゃると思いますが、1万円未満で泊まれる格安旅館でパイキング形式の食材は、ほとんど輸入食材や加工品、地元食材でも高級品はめったに使えません。旅行会社へ払う手数料等除き、食材費は2~3割未満に抑えないと利益確保が出来ません。(稼働率や設備投資額にもよりますが・・・)

よって地元産の〇〇牛を使った、地元産の山菜やキノコを使用した等々で実は輸入品や別の産地のものといったことは結構あったようです。(15年以上前のことですので、今は違うと信じてます)

また、最近「源泉かけ流し」とよく耳にしますが、2000年以前はそんな言葉は全く使われていなかったのをご存知ですか？

Wikipediaによると「掛け流し(かけながし)とは、温泉の浴槽への給湯・排水方法の1つで、地中から自然に湧出した温泉水(自然湧出)、掘削後自噴した温泉水(掘削自噴)、地中にある源泉から機械的に汲み上げた温泉水(掘削動力揚湯)を浴槽に供給し、浴槽から溢れ出た湯を排出することである。」とありますが、つまり循環湯や水道水の沸かし湯を使用していないことを言います。

この温泉宿ってホントに天然温泉使っているの？といった問題が2004年に発生、いわゆる「温泉偽装問題」です。水道水を沸かして温泉と偽装、はては入浴剤を使用していた温泉旅館が次々に告発されました。箱根や伊香保、水上温泉など超メジャー温泉でさえ次々起こった事件でした。

こういったことは、実は業界内では意外と知られており、水増し(源泉だけだと量が少ないので水道水を沸かして足している)はさらに多くの旅館がやっていたことで、私のいた旅館の周りでも、源泉の権利を3件分(所属温泉組合で決められた湯量)持っていた旅館が、大浴場や露天風呂、はては温泉プールなどなど設備拡大した結果、当然足りなくなってしまう、水増ししていたと聞きました。ただし、小規模温泉旅館はほぼ100%源泉のみ使用していたことは間違いありません。

昭和40年代は各旅館の規模も小さく、大風呂といっても20人も入れれば満員の大浴場→昭和60年頃団体客・バブル全盛時の大規模旅館は100~200人以上が一度に入浴出来る大浴場が当たり前になりました。湯の使用量は膨大になり、湧出量<使用量となった温泉地の源泉利権は高騰し、水増しは当たり前で、ついに100%水道水使用の温泉旅館が出来てしまったという時代でした。

多田 和広 (営業部課長)